

歴史作家 智本光隆 氏 講演会

群馬を描く 歴史小説

2024 3月7日 木

13:30~15:00

受付開始13:00

会場

群馬大学（荒牧キャンパス）
10号館122講義室<定員70名>
※詳細は裏面の会場案内をご確認ください。

お申込み

下記Webフォームからお申込みください。
<https://forms.gle/wBQS7GPd2XDrkD2y6>
申込〆切：3月5日（火）

一般の方も
参加できます



智本光隆氏は、歴史を「表現」するために「小説」というジャンルに挑戦し、南北朝時代を舞台にした歴史小説、戦国時代の仮想戦記、そして現代ものの歴史ミステリーと、形を変えながら歴史をデザインする方法を模索しています。近作では、群馬県を舞台にした『猫絵の姫君-戊辰太平記-』や『銅の軍神-天皇誤導事件と新田義貞像盗難の点と線-』（郁朋社）で幕末ものや女性主人公、そして歴史ミステリーなど表現の幅を広げています。本講演では、その創作の裏側や作品への想いを語ります。



©郁朋社

入場
無料

お問合せ

【群馬県大学図書館協議会事務局】群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館
<https://www.media.gunma-u.ac.jp/> Tel.027-220-7185 E-mail. clibis@ml.gunma-u.ac.jp

講師プロフィール



©郁朋社

ちもと みつたか

講師 智本光隆 氏

1977年、前橋市生まれ。京都精華大学を経て群馬大学社会情報学研究科修士課程修了。研究成果を生かして歴史小説の執筆を開始する。新田氏と南北朝動乱を斬新な切り口で描いた『風花』で、第14回歴史群像大賞優秀賞を受賞。2010年に『関ヶ原群雄伝』でデビュー。同作はシリーズとなる。以降、『本能寺将星録』『豊臣蒼天録』など戦記物の分野で新機軸を打ち出した。近年では、群馬県を舞台とする『猫絵の姫君一 戊辰太平記一』『銅の軍神 天皇誤導事件と新田義貞像盗難の点と線』（郁朋社）を刊行。他に戦中、戦後の歴史観の変遷に迫った論著『新田義貞論一政治の変遷が生んだ光と影一』（別名義）がある。

会場案内

群馬大学（荒牧キャンパス）〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

交通アクセス <http://www.gunma-u.ac.jp/access>

※お車でご来場の方は、10号館北側の【P8】学生駐車場をご利用ください。

お問合せは中央図書館（027-220-7185）まで

